

第1回呉市都市計画マスタープラン検討委員会 摘録

1 日時 令和3年9月17日（金）15時～17時05分

2 場所 呉市役所本庁舎 601会議室

3 概要・骨子

15:00

【構成員紹介】省略（資料1）

【市長挨拶】15:50 Webにより途中参加

呉市長の新原でございます。

皆様には、呉市都市計画マスタープラン検討委員会の構成員をお受けいただき、また、本日はご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

有識者の先生方には、様々な、そして率直なご意見をいただきたいと思っております。

それから、都市計画に関する委員会では珍しいと思っておりますが、市民代表として、無作為抽出によりお二人の方を構成員として選ばせていただきました。有識者の方々から意見は頂戴して参考にさせていただきますが、都市計画の最終的な受益者は一般の市民の方でございます。どうぞ遠慮せず、有識者の方がなかなか難しいことをおっしゃると思っておりますが、「それはどういう意味ですか」とか「私にはわからない」ということを正直に言っていただきたいと思っております。お二人に大変期待しております。

Web参加ですが、最後まで聴いておりますので、是非よろしく願いいたします。

【開催要綱】

開催要綱について事務局から説明（資料2）

【座長及び副座長の選出】

互選により、座長に 篠部 裕 構成員 を選出

座長の指名により、副座長に 中原 充生 構成員 を選出

15:15

【議題1】

「呉市都市計画マスタープランの改定骨子（案）について」事務局から説明（資料3）

15:30

【質疑・意見交換】

構成員からの主な意見は次のとおり

- 観光業界では、ポストコロナの新たな生活様式に対応した観光スタイルとしてワーケーション（ワーク＋バケーション）やブレジャー（ビジネス＋レジャー）が注目されている。広島市からアクセスしやすいという交通の利便性や、非日常的な魅力のある島しょ部を有するという呉市の強みを考えれば、このような新たな観光スタイルの導入という視点も取り入れるべきである。
- 都市計画では、都市機能の配置の議論が主となるが、配置された都市機能を運営し、地域をマネジメントする主体は住民である。呉市には、まちづくり協議会という体系化された自治組織があるが、そのような地域コミュニティについて「I 都市づくりに関する現況・動向」の中に加えるべきである。
- 呉市が、県内や周辺市町を含めた広域的な都市圏の中で置かれている状況を踏まえた計画づくりという視点も重要である。

⇒篠部座長

ポストコロナにおける観光スタイルの変化については、資料4ページの「多様性のある産業構造への転換」又は「ポストコロナ時代のまちづくり」に対応するものとして、全体構想の中で検討する必要がある。

広域都市圏の中で置かれている呉市の位置付けについては、上位計画である広島圏域都市計画マスタープランの中で、どのように整理されているかを踏まえて、全体構想素案を取りまとめていただきたい。

- コロナ禍における社会の大きな変化として、ICTを利用したワーケーション、サテライトオフィス、テレワーク、ネット通販等があり、これらの変化は、今後も変わらないこと、戻れないことの一つである。在宅で仕事をしながら、周辺に地域密着型の生活サービス機能があって、地域の中での生活を中心に経済が回るようなまちづくりの視点が必要である。
- 脱炭素のまちづくりは、呉市が掲げている「コンパクト＋ネットワーク」のまちづくりと整合的である可能性が高い。脱炭素に貢献する建物

の奨励等、将来を見据えて計画に盛り込むことが重要である。

- 減少している出生率に対しては、子育て環境をどのように整備するかが課題であり、職住近接、テレワーク、呉駅周辺再開発における市外通勤者をイメージした子育てサポート拠点などが考えられる。人口減少に対応するための「コンパクト＋ネットワーク」とあわせて、人口減少の原因である出生率の減少についても問題意識を持って取り組むべきと考える。
- 日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所呉地区の閉鎖は大変ショックだった。産業の多様化により強靱な産業構造とする方向性は、そのとおりだと思うが、果たして観光産業だけで日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所呉地区の役割を賄うことができるのかは不安である。

⇒篠部座長

ポスト日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所呉地区ということで、やはり2千から3千人の関係者がいなくなるというのは非常に大きな問題である。これを単に観光に依存するのではなく、しっかりとした産業基盤に立て直すという視点で都市計画マスタープランを検討すべきという意見だと思う。これについては、今後、全体構想の中にしっかり盛り込んでいくべきである。

- 市民アンケート等、市民の方から意見を伺うことは重要なことであるが、それと同時に市外にお住まいで呉市に興味を持っておられるサポーターの方などの関係人口の意見も聴取し、反映させることを検討いただきたい。
- 社会の急激な変化に対し、問題意識を早期に捉え、まちづくりに関する企画・立案を行い、ケーススタディを蓄積していくような行政組織が必要である。行政組織と言っても、市職員が担当する必要はなく、市民の方が担ってもいいかもしれない。大事なことは、形を作って予算を付けて、人を固定しないことである。経験や見識の限界もあることから、特定の者が長期間担当しないような仕組みづくりも必要である。

⇒篠部座長

市民生活に関係することに組織的にアンテナを張って、情報をキャッチアップし、適切に対応していく組織づくりが必要であるとの意見である。第5章の「都市づくりの推進方策」に、新しい局面が起きたときに組織としてどのように対応していくか謳うことが考えられる。

- 私は、出産しても呉市では子育てしないと思う。呉市の高校は、都会の高校に比べて指定校推薦が限られ、進学に不利である。また就職の面でも、働く場が少ない上、コンビニでのアルバイトの時給は広島市内で1,000円以上だが、呉市内では890円であるなど、残念に思うことが多い。我が子にまで、そういう思いをさせたくない。

⇒篠部座長

正に生活者の目線で、呉市の課題と言える子育て、働く場について感じていることを率直にお答えいただいた。

- 呉市は大学で勉強するには最適な場所である。買い物も近くでき、勉強する場所もある。ただ、住み続けるとなれば、就職面から呉市外が良いと思っている。
- 大学のボランティア活動で豊浜町に行ったとき、呉市に住んでいても知らない魅力がたくさんあると感じた。そういう島の観光地としての魅力をもっとしっかり情報発信し、たくさんの人に知ってもらえれば良いと思う。

⇒篠部座長

島の魅力、呉市の良いところを、呉市外の方に上手に情報発信して、まちづくりに活かしていくことも大事である。

- 今、若いお二人から「呉市に住み続けたくない」と言われショックを受けている。もっと若い世代に呉の魅力を情報発信し、このまま住み続けたい、Uターンして就職したいと思ってもらえるようなまちにしていけることが大事である。
- 呉市では、これまで、公園づくり等で市民の意見を取り入れるワークショップを開催している。住民参加により住みやすいまちとなるよう工夫していることをもっと情報発信すべきである。また、今後もワークショップなどを取り入れた市民参加型のまちづくりを進めるべきである。

⇒篠部座長

都市計画マスタープランを推進していくためには、市民の色々な活動がまちづくりに活かされるような仕組みづくりが必要である。

- 近年頻発する河川の洪水災害を防ぐことを目的として、国土交通省では流域治水を進めている。こういったことも念頭に検討を進めていただきたい。また、ハード整備と共に既存施設のメンテナンスにも力を入れていただきたい。企業の維持・誘致の面からも防災・減災、国土強靱化はとても重要なことである。

⇒篠部座長

上位計画の広島圏域都市計画マスタープランの中にも、「防災・減災」は頻出するキーワードの一つである。今回の都市計画マスタープラン改定の中でも、しっかりと盛り込んでいく必要がある。

- 呉市内には、豊浜のレモンなど観光産業の一翼を担えるポテンシャルを持つ農林水産物がある。産業構造の転換、観光産業の振興の面では、そういった農林水産物の視点も考慮していただきたい。

⇒篠部座長

都市計画マスタープランは、都市計画区域を対象とするので、都市部の話に囚われがちであるが、外周部の農業や観光などの産業とも関連付けながら、検討することも大切である。

- 次世代モビリティを推進するのは結構だが、呉市に住む全ての人がサービスを楽しむ環境づくりが必要である。呉市は、誰一人取り残さないという方向で取り組んでいただきたい。
- 私も、観光産業だけで日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所呉地区の役割を賄うことは難しいと思う。何か骨太の産業を呉市に誘致できないか考えるが、なかなか難しいことである。そういうことを考えると、賃金の良い市外で就職したいという思いは理解できる。そこで、働くのは市外、仕事が終われば呉市に帰って住むというイメージで、ベッドタウン化を進めるのも一つの方策だと思う。

⇒篠部座長

呉に住み続けてもらうためには、働く場の確保が一番重要な課題であるが、都市計画マスタープランだけでは中々答えを出すのは難しい。市の産業政策と絡めて考えていく必要がある。

- 現行の都市計画マスタープランは難しい記述が多く，一般の市民が理解しにくい。今回の都市計画マスタープランは，できるだけ都市計画の素人にも分かりやすい形となるよう工夫いただきたい。
- 産業振興，人々の交流，若い世代の移住・定住のためには，クレアラインの4車線化や呉平谷線などの交通網の早期整備と，土砂災害や浸水災害等へのハード整備が重要である。

⇒篠部座長

呉市は，平成30年に豪雨災害を経験したが，そういった時でも企業が事業活動を継続できる都市基盤の整備が重要である。

- 皆さんの意見を聴いて1点補足させていただく。市民のニーズ，つまり一人ひとりの個人の希望をどう実現していくか，まちづくりとしてどう対応していくかという視点が必要である。行政は，そういう視点に立って施策を組み立てなければ，市民の希望を実現することは中々難しいと思う。

例えば，全国調査で「一子まで欲しい」と回答した未婚女性は8%であったのに対して，「三子まで欲しい」と回答した女性は20%であった。この20%を実現することはとても難しい。呉市で，三子まで欲しいという希望を実現しようとするのであれば，広めの住宅，ゆとりのある生活時間，子育てサポートや保育サービスの充実等が必要である。

16:50

【その他】

「都市計画マスタープランの改定に伴うアンケート調査の実施について」事務局から説明（資料4）

【質疑・意見交換】

- 先程申し上げた市外の方への意見聴取について，内容は，この市民アンケートと同じで良い。同じ項目を聴けば，内外でどの程度ズレがあるのかが分かる。市民アンケートの抜粋でも良いし，自由記述があっても良いと思うので，市外の方の意見聴取を是非お願いしたい。

⇒篠部座長

市民目線も大切だが，外部からの目線で呉市を再認識することで，よ

り適切な都市計画マスタープランを策定できるという意見である。市民アンケートには、呉市在住でないという回答できない設問もあるが、市外の方がどのように呉を捉えているか等について、どういう仕組み・方法で意見聴取をするか事務局で検討いただきたい。

【改定スケジュールについて】

〔篠部座長〕

- 本日、「市外の方から意見を聴いて、改定に反映させるべきである」という意見をいただいた。資料3の10ページの改定スケジュールでは、11月開催予定の第2回検討委員会に全体構想素案を提案いただけることとなっているが、今から市外の方に意見を聴取して素案を取りまとめるとなると、なかなかこの2か月では難しいと思われる。ついては、第2回の開催を少し遅らせる形で、改定スケジュールを見直して進めていただきたいと思うが、構成員の皆さん如何か。

(異議なし)

それでは、11月予定の第2回検討委員会は、若干後倒しにして進めていただくよう事務局で検討いただきたい。

17:00

【副市長閉会挨拶】

呉市副市長の江田でございます。

本日は、本委員会にご出席いただき、また、多岐に渡り貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございます。

市民代表の方から「住み続けるなら呉市以外が良い」という率直なご意見をいただきましたけれども、私共も真摯に受け止めて、暮らしてみたいと思っただけのようなまちづくりを進めていかなければならないと痛感いたしております。

本日頂いた貴重な意見を踏まえ、次回、全体構想素案を提示させていただきますので、引き続きよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

17:05

【閉会】